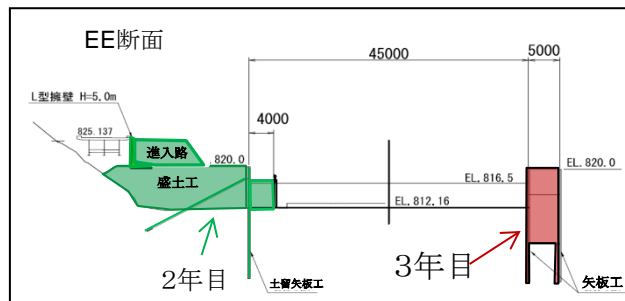
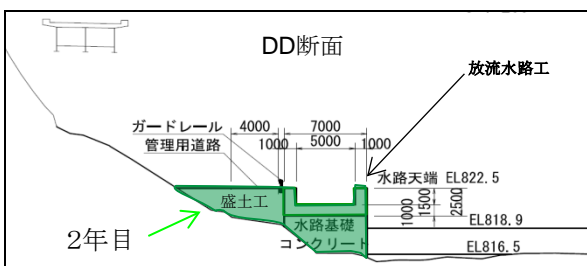
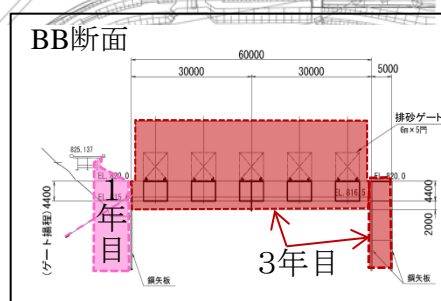
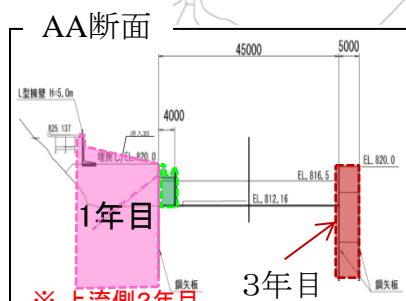
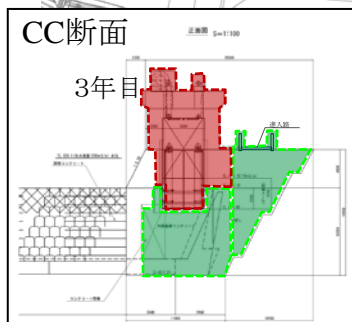
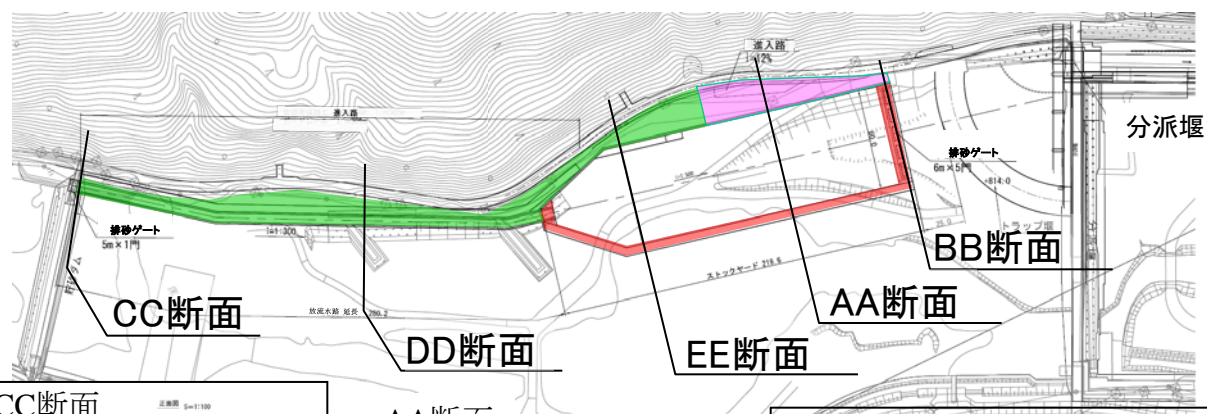


3) 個別説明

(2) 湖内堆砂対策施設

(約104.6百万円) 測量設計費

- 平成25年度は、湖内堆砂対策施設の下流への影響検討、施設の予備検討、模型実験等を行い工事施工に向けた詳細設計を実施する。
- 平成26年度より、湖内堆砂対策施設について、3ヶ年で実施する計画であり、1年目はストックヤード(山側)下流部の土留矢板工(検討中)、盛土工、進入路、2年目はストックヤード(山側)上流部の土留矢板工(検討中)、盛土工、進入路及び放流水路工及び放流水路 山側の周辺整備等を施工。3年目には、ストックヤード(川側)の矢板工(Wウォール)及びストックヤード(貯水池内)におけるゲート及び周辺の土木工事等を施行し、平成28年度の事業完了を目指す。



凡例

年度	主要施設 施工位置	主要工種	適用
1年目	・ストックヤード (山側)下流部	土留矢板工、盛土工、 擁壁工、進入路等	26年度
2年目	・ストックヤード (山側)上流部 ・放流水路工 ・ゲート設備関連	土留矢板工、盛土工、 擁壁工、進入路等 基礎工からコンクリート構 造物工(水路本体工)等 ゲート設備 (各ゲート工場製作 ・保 管)	27年度
3年目	・ストックヤード (川側)(貯水池内) ・ゲート設備関連	矢板工(Wウォール) ゲート設備工 (各ゲート据付、水門(門柱) 工)等	28年度

3) 個別説明

(3) 土砂バイパス施設モニタリング調査

測量設計費: 約18.0百万円

- 土砂バイパス施設(土砂バイパストンネル、分派堰、貯砂ダム)は平成17年に完成し、同年より試験運用を行っている。
- 試験運用に係るモニタリング調査では、土砂バイパス施設の効果が確認され、また、下流環境への影響は認められなかった。
- 引き続きモニタリング調査を行い、施設の効率的な運用を構築していく。

◆土砂バイパス施設 完成状況(写真)

土砂バイパストンネル



土砂バイパストンネル
吐口正面



土砂バイパストンネル
吐口放流状況

分派堰



下流から上流へ上空から望む

貯砂ダム



上流から下流を望む

◆土砂バイパス施設の効果

- 平成17年度の試験運用開始以降、平成24年度までに11洪水で土砂バイパス施設の運用を行っている。
- このうち、H18～H20の4洪水の実績では、流入土砂量の合計約130万 m^3 のうち、分派堰、貯砂ダムで砂利や砂など約63万 m^3 ※2が捕捉されるとともに、土砂バイパストンネルにより、約32万 m^3 ※1の土砂を下流へバイパスし、合計約95万 m^3 の土砂流入を防いだことになる。

※1 土砂量は、流量とSSの相関式により算出。

※2 捕捉土砂量は、堆砂測量による。

堆砂対策施設の効果

